

守る！逃げる！判断して行動する！
 災害時 その16
 いっしょに考えていこう～BCP～

当法人は、広島市と「福祉避難所の設置に係る協定書」の協定を締結しています。福祉避難所とは、災害時に指定緊急避難場所へ避難された方で、通常の避難場所で過ごすのが難しい場合、市が候補施設と調整し、福祉避難所を開設します。

今回は、当法人の受け入れ態勢の内容を周知いたします。

- 要配慮者の受入れ 自助及び付き添い者で生活が可能ならば、3名。
(付き添い者含め6名)
- 非常電源 なし
- 停電時の水の使用 3日程度の備蓄あり
- 非常食 3日程度の備蓄あり
- 日用品等の物品の貸し出し ベッド2台、ソファベッド1台
バスタオル、紙おむつ
- お風呂の利用 介助は不可 使用時間制限あり
- 身障者用トイレ 介助は不可
- 送迎 不可
- ペットの同伴 不可
- 冷蔵庫 利用可能 使用時間制限あり
- 施設利用場所 1階リハ室、面接相談室
- その他 コンセント使用可能
空調あり

*ライフラインの状態によっては、入浴、電源の使用は不可

和光園だより



9月29日の十五夜。お月見御膳を召し上がっていただきました。
 ゼリーの上のうさぎさんも手作りなのですが、なんと筋肉モリモリ、満月にふさわしい、強そうなうさぎさんでしたよ。
 今年の中秋の名月は素晴らしい満月でしたね。



コンロから目を離さないで！！
 ～てんぷら油火災にご注意を！～



『平和都市 みんなでつくる 防火の輪』

「日陰に入りましょうか？」と尋ねると、永光さんは「せっかくだから陽にあたるほうが良いでしょう」と素敵なお返事！



保育所の園児さんが、十四日の運動会に向けて毎日練習に励んでいます。応援に行くと、こちらが元気をいっぱいもらいましたよ。



「かわいいな～」を連発。大感激の岸さん(右)と草加さん(左)



二階の保育ルームから0歳児さんが手を振ってくれているのを見つけて、ニコニコの松本さん



研修報告『時間栄養学から考えるwell-beingな食・栄養のタイミング』
 講師 広島大学大学院 医系科学研究科 公衆衛生学
 准教授 田原 優氏

高齢者に対する時間栄養学として、朝タンパクについて学んだ。筋合成には毎食のタンパク質摂取が必要不可欠で、1回の食事で高齢者は体重1kgあたり0.4g 摂取することで筋合成が最大になる。これまでの国民健康栄養調査によると平均的なたんぱく質摂取割合として、朝・昼・夕で2:3:4という結果があるそうだが、多くの研究で高齢者で朝のタンパク質摂取割合を増やすことで筋力維持、増加が期待できるという結果が報告されているようだ。
 講義の最後に他の参加者との意見交換があったが、やはりどこの高齢者施設も朝は調理員の方の負担を考えると品数は多くできない。栄養補助食品を取り入れたいが金銭的にも難しい。という声が多かった。たとえ、品数を増やすことができても介助する側も大変であり、食べていただく利用者さんにとってもたくさん食べることが負担になる場合もある。現在当施設では、朝のスープに入れるひき肉はミキサーにかけて普通食の方でも、軟菜食の方でも食べられる形態にするなどの工夫は行っている。特に朝食は、作る側としても、多種の食形態で作り分ける負担を減らすことができ、食べる側としても食べやすくなるために、利用者さん、調理職員、介護職員、それぞれの立場になって負担がなるべくかからないよう、かつ、しっかり栄養が摂れるような食事の提案ができるようになりたい。

報告書 管理栄養士 加藤 舞